



県公連会報

第348号

令和5年12月19日
富山県公民館連合会
富山市舟橋北町7-1
富山県教育文化会館内
TEL・FAX(076)444-5777
E-mail tomic07@iaa.itkeeper.ne.jp

行事をブラッシュアップ



従来の「地区民体育大会」「公民館まつり」等の行事をリニューアルし、多くの住民に参加を呼びかけています。

親子で参加できる企画



サンドブラスト、ジェルキャンドル、立体切り絵など、わくわくする活動を企画しています。

動画とリンクした広報誌



写真と動画で地区の活動を分かりやすく伝え、見て、知って、参加するきっかけにしています。

地域諸団体との連携



「未来におせっかい」、こども園・学校等と連携し、「そうめん流し&ゲーム」などのダイナミックな活動をしています。

表彰写真

新旧住民の融和を図る4つの取り組み

砺波市立油田公民館

砺波市油田地区は人口、世帯数が出町地区に次いで多く、「砺波市の副都心」として年々人口が増加している勢いがある地域です。先住民より移住してきた人の方が多いのが特徴で、新旧住民の融和が課題です。

公民館では「出会い、ふれあい、生き生き学ぶ公民館」をスローガンに掲げ、地域住民の親睦と融和を図るさまざまな行事や学びの場を通じて交流を深め、地域住民が郷土に愛着をもち、住んでいる誇りをもってもらえるよう努めています。

〈本号の主な内容〉

- 2面 ● 第17回富山県公民館大会
 - ・ 会長・県教委挨拶
 - ・ 講演概要
- 3面 ● ・ 委嘱公民館の発表
第51回富山県社会教育大会
- 4面 ● 公民館主事・指導員等現地研修会
東海北陸公民館大会岐阜大会
- 5面 ● 公民館館長研修会
 - ・ 講演概要
 - ・ 委嘱公民館の発表
- 6面 ● わが町の公民館活動
 - ・ 黒部市立若栗公民館
 - ・ 氷見市藪田公民館
- 7面 ● わが町の公民館活動
 - ・ 富山市立月岡公民館
 - ・ 上市町立弓庄公民館
- 8面 ● 表彰館紹介
 - ・ 小矢部市立松沢公民館

第17回富山県公民館大会 開催

9月14日(木)、第17回富山県公民館大会は、参加者を絞らずに280名が参加して、富山県教育文化会館ホールで開催された。

開会にあたり中西会長から、富山市立山室公民館の2,000人の地域の方を集めた夏のフェスティバルと高岡市立福岡公民館の全国とのオンライン交流活動が、全公連「月刊公民館」等で全国に発信されたことの紹介の後、「コロナ禍でデジタル活用技術が発展したが、公民館による格差がある。『公民館 de つながるモデル事業』等に参加し、是非新しい時代の公民館活動に取り組んでほしい。」との挨拶があった。



挨拶する中西会長

県公民館連合会の表彰式に続き、来賓の新田知事代理の水落仁理事・県教育次長から「近年、人口減少やデジタル化の進展、災害の多発など、社会環境や自然環境の変化に伴い、各地域においても、新たなニーズや課題などが生じています。



挨拶する水落理事・県教育次長

これらにきめ細かく対応し、地域の持続的発展に繋げていくためには、これまで公民館が培ってきた地域との関係を生かしながら、住民の皆さんと共に、地域づくりや人づくりに取り組んでいたのだと考えています。そして、公民館の基本的な3つの機能『つどう』『まなぶ』『むすぶ』を大切にされ、公民館がますます地域コミュニティの中心となることを願っております。

県の成長戦略では、富山県で暮らす人も訪れる人も幸せを実感できる『幸せ人口1000万〜ウェルビーイング先進地域、富山〜』の実現に向け、皆様と『ワンチーム』となって、取り組んでいます。人と人、人と地域がつながることでウェルビーイングが向上します。富山県での暮らしに胸を張れる未来を、皆様と共につくっていきたいと考えています。」との祝辞があった。

【講演】

1. 演題

「未来から過去に流れる公民館の時間
～新時代に取り組むべき5つの整理とは～」

2. 講師

映画監督
全国公民館応援団長 林 弘樹 氏

3. 講演内容(要旨)

- (1) 真の「人生100年時代」
 - ・今の高校1年生が100歳まで生きられる確率50%
 - ・生涯学習の時代(公民館が最前線の現場)
- (2) 新学習指導要領も変わった
 - ・大人にこそ学びが必要
 - ・社会教育の出番
- (3) デジタル・オンライン化リアルで行っていたことをオンライン化する時は、「オンラインにしたことによって生まれた新たな価値」がなくてはならない。
- (4) 新時代に取り組むべき5つの整理
 - ① ラッキーワーク(これまでやってきた仕事で、これまで通りできること)
 - ② 対処ワーク(コロナの影響で対処しなくてはいけないこと)
 - ③ 惰性ワーク(もうほんとはダメになっているのに惰性でやっている仕事)
 - ④ 吊いワーク(コロナでダメになった仕事の後処理みたいな仕事)
 - ⑤ 新しいワーク(コロナの後、せっかくだから始めようとしている新しいこと)
- (5) 未来から過去に流れる公民館の時間
 - ・利他とは、今行った行為が未来で他者に受け取られ利他(感謝)認識された時に起動
 - ・結果は未来に受け取られると信じて、「人づくり・地域づくり」に取り組む。



講演する林氏

※富山県公民館連合会のホームページで、講演の動画を配信していますのでご覧ください。



表彰に輝いた方々

【富山県公民館連合会表彰】

・優良自治公民館表彰

高岡市大源寺新町公民館 高岡市本領集会所

・永年勤続表彰(20年以上)

平澤佳代子 野口るり子 大嶋 啓子 谷口ルリ子 秋村 好美 若林 祐子 森山由加利
清瀬伊紀子 黒田真由美

・永年勤続表彰(10年以上)

永山 雅子 稲村 浩子 舘川 和美 中沖 基子 青島 幸子 長田 正美 田中 雅美
小林 克也 島 通夫 覚王 紀子 川合 翠 宮崎 繁幸 久次 恵子 高崎 幸人
澤井 慶子 石坂真知子 浦島 里弥 橋場 佐枝 影近 一美 大沼 宗義 澤 徹
高田 昌美 尾山ゆかり 定村 一美 中野 貴子 戸坂 一夫 嘉義 陽子 水島 哲也
水島 雅樹

令和4年度公民館活動研究委嘱公民館の実践発表

地域の期待に応えられる公民館活動

高岡市立下関公民館 主事 大道 真琴 氏

1. 主題について

文化教室・サークルの活動の場や自治会・諸団体の活動拠点として利用されている。公民館が企画運営する事業や下関ならではのイベントには、下関小学校・芳野中学校の児童、生徒も参加しており、これからも多くの地域の住民同志がかかわりをもてる公民館を目指していく。



発表する大道主事

2. 実践事例

公民館の企画、開催事業として下関ウォーキングやバスハイキング、文化祭、各種講座など11件を開催した。

小中学生には、土曜学習や公民館文化祭への作品提供、ミニ門松づくり、前田利長公墓所清掃に

参加してもらっているが、力強い手ごたえを感じている。

令和3年に公民館ホームページを開設、4年に公民館だよりの発行を行い、これまで以上に公民館に興味と関心をもってもらえるように工夫した。

3. 成果と課題

令和4年度は、計画していた事業を全部実施することができ、楽しみにしていた人、やりたいという思いのある人の期待に応えることができた。特に文化祭は、普段は個別に活動している人たちが公民館に集結し、全員でつくり上げることができ感動した。

体を動かしたいとか、人と集みたいという感情は、人間が本来もっている本能的な欲求のように感じる。地域にある公民館は、その欲求を満たしてくれる身近な存在であり続けたいと思う。

※富山県公民館連合会のホームページで、実践発表の動画を配信していますのでご覧ください。



「人と人との絆が深まり 豊かに生きる地域社会をめざして」

第51回富山県社会教育大会 開催

第51回富山県社会教育大会は、7月15日(土)県社会教育振興協議会に加盟する11団体から233名が参加して、婦中ふれあい館で開催された。公民館連合会からは56名の参加があった。

開会にあたり、中西会長が挨拶し、新田知事、奥野県議会副議長から祝辞があった。

表彰式では、各社会教育団体の活動に長年にわたり貢献されてきた方々に、新田知事から感謝状が贈られた。本会からは、馬場 均前副会長が表彰を受けた。

その後、新田知事の講演があった。

【講演】

1. 演題

「『幸せ人口1000万人～ウェルビーイング先進地域、富山～』の実現を目指して」

2. 講師

富山県知事 新田 八朗 氏

3. 講演内容(要旨)

(1) 私と社会教育

- ・ボーイスカウト歴 昭和44年～51年
- ・母親からの教え：お隣の分まで雪かき「公益」

(2) ウェルビーイング

- とは
- ・良い状態で満足している
- ・主観を重視し持続的な状態

(3) 成長戦略とウェルビーイング指標



講演する新田知事

① 幸せ人口1000万

県内で暮らす人々のウェルビーイング向上はもちろん、本県に魅力を感じて、県外・国外からつながる、集まる、交流する人々(関係人口)を増やしていく。

② ウェルビーイング指標

- ・生きがい・希望、思いやり、安心・心の余裕、心身の健康、経済的なゆとり、自分らしさ、自分時間の充実の「なないろ指標」(7つ)

・ウェルビーイング特設サイト



(4) 富山県の未来をつくる

人と人、人と地域、大人と子どもとのつながりが、ウェルビーイングを高めていく。

実践発表では、富山県PTA 連合会副会長の沼田秀和氏が「子どもたちの幸せな未来を全力応援」と題して、黒部市立さくら幼稚園PTA 役員の藤井優華氏が「子どもの笑顔と健やかな成長を共に支える」と題してそれぞれ実践発表を行った。

最後に、富山県婦人会の岩田繁子会長が大会宣言を提案し採択された。



発表する沼田県PTA連副会長



発表する藤井PTA役員

令和5年度公民館主事・指導員等現地研修会

高岡市で開催 講話、施設見学、現地見学を通して研修を深めました

10月5日(木)、現地研修会は、県東部から35名が参加して開催された。

開催にあたっては、高岡地区の公民館主事・指導員評議員会の皆さんのご協力のもと行われた。

各地区を出発したバス2台は、午前9時50分頃に、最初の研修施設である高岡市立成美公民館にそれぞれ到着した。開会式に引き続き、研修Ⅰでは、高井清高館長さんに「生き生きと輝く公民館を目指して」と題して講話をいただいた。

その後、施設を見学し、美味しい昼食弁当をいただき、公民館を出発した。



全体研修会の様子



講話する高井館長

研修Ⅱの現地研修会では、以下の2カ所を見学した。

- ① 高岡市万葉歴史館
 - ・大伴家持を通して越中万葉の世界を体感
 - ・特別企画展「万葉植物と色の世界」観覧
 - ② 国宝勝興寺
 - ・文化財保存・活用事業団専務理事の高田克宏氏に詳しく解説いただきながら見学
 - ・国宝指定記念展「縁歴史を支えた人々」観覧
 - ・国重要文化財「洛中洛外図屏風」拝観
- 来年度は、黒部市で現地研修会を開催する予定です。多数のご参加をお待ちしています。



勝興寺総門の見学



高田氏の解説を聴く参加者

第45回全国公民館研究集会 大垣市で開催
第58回東海北陸公民館大会岐阜大会

大会主題 「未来を指向する公民館」
～人・地域を育む拠点としての新たな高みを求めて～

本年度の全国公民館研究集会・東海北陸公民館大会岐阜大会が、初めての1日開催で10月20日(金)に岐阜県大垣市のソフトピアジャパンを会場に開催された。

富山県からの参加者数は、対面参加者が125名、Zoom参加者が39名、合計164名であった。

開会行事では、主催者を代表して中西彰全国公民館連合会会長(富山県公民館連合会会長)が、「コロナとの戦いの中から、オンラインによる機関会議や講座等を開催したり、SNSを使った広報活動が広がったりするなど、各地で創意工夫が生まれてきた。こうした工夫は、それを開発した自分たちだけのものとせず、このような大会や様々な場で情報を共有し合い、知見を交換しながら、お互いを高めていきましょう。」と挨拶した。

午後は、4つの分科会に分かれて研究協議が行われた。第4分科会では、高岡市立成美公民館の高井清高館長が司会者を務め、高岡市立下関公民館の大道真琴主事が「地域の期待に応えられる公民館活動」と題して実践発表を行った。



実践発表する大道主事

助言者の元田美穂氏から「公民館の役割を整理して明確にしていることや町が誇る文化遺産を活用し、地域住民の連帯感やほこりを高めていることが素晴らしい。」とお言葉をいただいた。

閉会行事では、岐阜大会三輪大会長から次年度開催県の石川県公連竹上会長に大会旗が引き継がれた。

表彰に輝いた方々

【全国公民館連合会表彰】

・優良職員表彰

馬場 均

・永年勤続表彰(15年以上)

見高 知子 桑本 里佳

熊谷 明子 池田万利子

山崎 康治

瀬山 雅代

今村加代子

津山 節子

山田 政寛

野田磨里子

藤田 靖志

金和 賢仁

高嶋 正美

武田佐千代

島先 紀子

【東海北陸公民館連合会表彰】

・優良職員表彰

大沼 宗義 吉田 重成

「これからの公民館の役割や地域社会との多様な連携のあり方を考える」 富山県公民館館長研修会開催

11月8日(水)、県公民館館長研修会は、141名が参加して新川文化ホールで開催された。

開会にあたり、来賓の県教委生涯学習・文化財室家庭成人教育班の河原千里班長から「県では、今年度より『公民館 de つながるモデル事業』を実施しています。従来から行われている集合対面型の公民館活動にデジタルを組み合わせ、人々が多様につながる新たな公民館活動の創出を支援する事業です。今年度は、9市町村11モデル公民館に取り組んでいただいております。公民館職員への支援として『スキルアップ講座』を開催しました。オンライン講座の仕方やSNS、2次元コードの活用等の実技講習は大変好評でした。この事業が今後、地域の方々との絆づくりや地域コミュニティの活性化につながるよう、期待しております。」との挨拶をいただいた。

研修1では、富山県地方創生局観光振興室主任の高田博史氏が「新たな時代の観光と富山の魅力



激励の挨拶をする
河原家庭成人教育班班長

再発見」と題して講演した。

講演では、人口減少社会において観光等を通じた交流人口を拡大することの大切さや本県観光の最近の動きとしてマイクロツーリズム、黒部宇奈月キャニオンルートなどを紹介していただいた。

そして、魅力ある観光地とはお客様がまた行きたいと思われるところであること、理想の観光地はそこに住む人が地域のすばらしさや歴史を共有し誇りをもっていること、その観光地を見つけてもらうためには情報発信が不可欠であることなどがよく分かりました。

そして、公民館館長の皆様に、魅力ある公民館となり、利用者にまた行きたいと思われるためにどう工夫していくかといったことへの大きなヒントになりました。



講演する高田氏

※富山県公民館連合会のホームページで、講演の動画を配信していますのでご覧ください。



研修2 令和4年度公民館活動研究委嘱公民館の実践発表

地域住民による、ふるさと再発見!! Ver 2 みんなでつくる『キャッチフレーズ&長岡の魅力』

富山市立長岡公民館 主事 山本 桂三氏

1. 主題について

令和3年度に「長岡の郷土史」の復刻版を発刊し、これをVer1とした。Ver2では、長岡の魅力を発信するために、「キャッチフレーズ&長岡の魅力」を一般募集することにした。

2. 実践事例

募集と応募用紙のチラシを全戸配布。二次元コードからも送れるように工夫し、長岡小学校の児童全員に書いてもらった。募集作品を対象に住民投票を行った結果、キャッチフレーズは『呉羽の大地 縄文の里長岡』、長岡の魅力は『緑あふれ 時を超えて人がつながる長岡』が選ばれた。

横断幕やのぼり・シールを作成して、各種イベントや広報誌に活用している。

3. 成果と課題



発表する山本主事

地域住民の全員参画の事業として実施した。子供たちには、将来自分たちが作った『キャッチフレーズ&長岡の魅力』を次世代に繋いでくれるよう期待している。いまVer3『長岡のみどころを作ろう』を製作中で、息の長い事業として継続していきたい。

エンジョイライフSTYLE 講座開設 (人生を楽しむ、楽しい生活を送る、お手伝い)

小矢部市立正得公民館 主事 今村 幸博氏

1. 主題について

地域に対する愛着や主体的に関わる意識を高め、人生や生活を楽しむお手伝いができないか、という思いから今回の講座を開設した。

2. 実践事例

委嘱事業実行委員会を設立し、陶芸教室・ヨガ体験教室2回・苔玉教室を開催した。どの教室も参加者に楽しんでもらった。苔玉は作品展へ出品し、地域住民に鑑賞してもらい好評を得た。ヨガ体験では健康に対する意識向上がみられ、新しくヨガサークルを開設し現在も月2回活動している。

また、LINE公式アカウントの開設や玄関鍵をオートロック化するなどデジタル活用を推進し、若年層への地域参加を促したり、公民館職員の事務及び個人負担の軽減をししたりしている。

3. 成果と課題

全体を通して、人生を楽しむ、楽しい生活を送る手助けになったと思う。今後も、デジタル活用を通じて、全世代が安全に親しみやすく利用しやすい公民館づくりを目指す。



発表する今村主事

※富山県公民館連合会のホームページで、実践発表の動画を配信していますのでご覧ください。



自然体験を通して育む ふるさと愛

黒部市立若栗公民館

若栗地区は、黒部市指定文化財の「松桜閣」や「若栗城跡」など先人たちが育んだ歴史や遺産が多く残る地区で、世帯数725世帯、2,027人（令和5年10月末現在）が暮らしています。

また、北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」が整備され、富山県の東の玄関口として1年を通して多くの人が若栗地区を訪れます。

若栗公民館は「若塾ふれあいセンター」の愛称で親しまれ、老若男女問わず多くの方が訪れる地域の拠点として多種多様な公民館活動を実施して



ヤマメの稚魚放流

います。

中でも、若栗地区の特徴的な活動として「ヤマメの稚魚放流」があります。この活動は地域を挙げて取り組んでいる活動で、地区内のゴミ拾いや河川の清掃を行い、ヤマメの住める環境づくりから行います。清掃活動には300名以上の方が参加し、地域内のゴミ拾いをしながら、植物や生き物の観察を行い、世代間交流を行うとともに、環境問題について学びます。

清掃活動後は、いよいよヤマメの稚魚放流です。地区の子どもたちは、ヤマメが海に行ってサクラマスとなってこの川に戻ってくる話を聞いて、「大きくなったら帰ってきてね」と声をかけながら放流を行いました。

このような身近な自然とのふれあいや体験を通して子どもたちがふるさとの文化や自然を学び、また地域での交流を通してふるさとへの誇りや愛着を育むことは、喫緊の課題である地域の担い手不足や地域コミュニティの衰退を解消することにつながります。

今後も「若塾ふれあいセンター」が、地域の交流の場として親しみをもって活用し続けていただける場所であるように努めていきたいと思っています。

わが町の公民館活動

氷見市藪田公民館

地域に根ざした活動を

藪田地区は氷見市の北部に位置し、富山湾越しの立山連峰が一望できる風光明媚な所です。当地区は、藪田・小杉・泊の3地区から構成され、人口675人、世帯数297世帯（令和5年12月現在）から成る小さな地区です。

“九転十起”でご存じの“浅野総一郎”生誕の地としても知られています。総一郎の銅像の立つ児童公園には県内外から多くの方が訪れ、お天気の良い日には親子連れが遊ぶ微笑ましい光景が見られます。

公民館活動は、市の補助金を活用した地域コミュニティ活性化事業を中心に実施しています。今年度は6事業に取り組んでいます。

活動は春の花壇づくりから始まり、蕎麦、大豆の種まき、さつま芋の苗植え、遊休農地でのコスモス・ヒマワリの種まきと続きます。その際、除草や水やりなどの管理は欠かせません。

秋は収穫祭として親子でさつま芋掘りや焼き芋、紙芝居、ゲームなど楽しいふれあいをしています。

また、地区社協、健康づくりボランティアと連携して、“らくらく体操教室”（年6回）、健康ウォーキング、寄植え、カローリング大会など住民の健康促進にも努めています。

冬は収穫したそばでの麺作り、大豆での味噌作りを実施します。そばや味噌はいつも美味しいと好評です。

その他、今年は門松づくりに初挑戦します。参加の皆様には、是非とも手作りの門松で新年を迎えて頂きたいと準備を進めています。

私たちは、故郷に愛着をもつ住民として、常に新たな活動に挑戦し続けたいと思っています。住民の皆様が「元気が出る」「住んでいてよかった」「藪田が一番」と思っただけの地域づくりを目指していきます。

そして、公民館がこれまで以上に、地域の“憩いの場”、“集いの場”、“人の輪”の基地になるよう努めていきたいと考えています。



そば打ち体験

公民館活動で 「発見・喜び・感動」を！

富山市立月岡公民館

月岡校下は、富山市南部に位置し、北に富山地方鉄道不二越・上滝線が走り、東西に広域農道（富山中部スーパー農道）が通り、南に熊野川が流れるエリアです。

月岡公民館では、ふるさとづくり推進協議会の恒例行事「えだまめ収穫祭」の開催、ふるさと講座では「親子パンづくり教室」や「みそづくり教室」など、幅広い年齢層の方が参加できる事業・



影絵パレード

講座を開催しています。

なかでも今年には11月に、初となる「影絵鑑賞とワークショップ」をジャック・リー・ランダルさんと上野聡美さんをお迎えして開催しました。

鑑賞会には多くの住民が来場し、ジャックさんの愉快的トークや影絵ならではの柔らかく優しい絵、上野さんの影絵に合わせた軽快な音楽で会場がひとつになりました。

目を輝かせて影絵に夢中になる多くの子供たち、演奏者に合わせて手拍子を打つ来場者の姿がととても印象的でした。

年長児対象のワークショップでは、子供たちは初めての影絵作りに挑戦！最初は戸惑いもありましたが、コツを見つけ、工夫を重ね、個性が光る素晴らしい影絵が続々と完成！あちこちで「上手にできた！」と喜ぶ声が響いていました。

最後に「影絵パレード」を行い、楽しそうに影絵を操る子供たち、生き生きと動く影絵の様子に会場内は温かく感動的な雰囲気に包まれました。

今後も公民館が、地域の皆さんの「発見・喜び・感動」が生まれる場となるように活動をしていきたいと思っています。

わが町の公民館活動

上市町立弓庄公民館

人の和・地域の輪

弓庄地区は、上市町の西南部、白岩川沿いに延びた地域で、立山町に隣接しています。

地区は三つの町内で構成され、人口は771人、世帯数は311世帯、上市町の中では小さな地域です。

弓庄公民館は、渡り廊下でつながった体育館やグラウンドが整備されるなど、恵まれた環境にあります。グラウンドではソフトボール大会やレクリエーション大会、体育館では公民館フェスティバル、冬のフェスティバル、高齢者の集い等を開催しています。

近年、高齢化や新型コロナ等によりイベントや公民館講座への参加者が減少傾向にあり、また、講座そのものも減少しており、このままいけば人と人とのつながりや地域の連帯感、コミュニティの希薄化による地域活力の低下が懸念されています。

そこで当館では、公民館フェスティバルや冬のフェスティバルに合わせ、“カローリング”（氷上で行うカーリングをフロアでできるようにしたもの）を「ふれあい交流大会」として企画しました。日頃あまり顔を会わせることのない各講座や

消防団、福祉関係者等の地区団体に参加いただいたり、地区レクリエーション大会では町内から老若男女のチームが参加したりしました。初めてカローリングをする方や若い人達からの歓声が大会を盛り上げ、地域や世代間の交流が図られたと感じています。こうしたことをきっかけに多くの人に公民館を身近に感じてもらい、住民同士の「和」が深まることによって地域の繋がり「輪」をもっともっと広げていきたいと考えています。



ふれあいカローリング大会

表彰館紹介

小矢部市立松沢公民館 令和2年度優良公民館表彰 (文部科学大臣表彰) 受賞

松沢地区は、市の中南部の庄川扇状地北西端にある農村地帯で、タワーがシンボルの「クロスランドおやべ」、「公立学校共済組合北陸中央病院」などもあり、市内でも人口変動の少ない地区で、1,053世帯、2,713人が居住しています。小矢部市といえばメルヘン建築が有名ですが、当公民館もその一つで本体はボストン公会堂、塔屋はセント・ポール大聖堂を模して建設されています。

公民館では、子どもたちが、心豊か・健やかに育まれることを目的とした「松沢っ子教室」と、趣味や健康などのふれあい活動を通じて、地区民がいきいきとした生涯を歩むことを目的とした「いきいきふるさと教室」を展開しています。また、公民館が身近な存在となるように、情報発信にも力を入れて取り組んでいます。

「松沢っ子教室」では、田植えやさつまいも苗の植付・収穫などの体験教室、食品サンプル作り、バレンタインリース作りなどの芸術・ものづくり教室、3世代交流や宿泊合宿といった交流活動を実施しています。さつまいもの体験教室では、「好きな食べ物はさつまいも！」と言って大変喜んでいきます。また、宿泊合宿では、小学生が公民館で寝泊まりして、自分たちで考え意見を出し合い行動することを学んでいます。各種団体など多くの地区住民が関わり、子どもたちの元気な声やいきいきとした姿から、大人も元気をもらっています。

「いきいきふるさと教室」では、手芸教室や料理教室などを開催し、食生活改善推進員や長寿会、地区住民が講師や協力者となって、教室を通して地区住民のふれあいの場となっています。

情報発信では、館報の「松沢公民館より」を平成26年度から毎月発行に切り替えて全戸配布しています。また、若い世代の公民館活動への参画をねらって、SNSの活用も開始しました。子どもたちの活動の様子を載せると、やはり親御さんの反応はいいですが、参画するにはまだまだ課題がありそうです。

松沢公民館では、日頃から自治振興会や社会福祉協議会、その他地区の各種団体の理解もあり、地区全体の連携が特徴の公民館です。今後も、地区住民が立場や世代、職種を超えて集い、地域の活動拠点としてお互いの顔が分かり、寄り添える場所となるように取り組んでいきたいと思えます。



松沢っ子教室「田植え体験」



松沢っ子教室「さつまいもの収穫体験」



宿泊学習「勾玉作り」



生涯学習講座「ハーバリウム作り」

おめでとうございます！ 各種受賞者・公民館を紹介します

◇令和4年度「富山県教育功労者等表彰」

・優良社会教育機関：黒部市立浦山公民館
・社会教育功労者：大沼宗義氏（元富山県公民館連合会副会長）